



# 息の長い子ども支援を、社会全体で

宮城で20年以上、子どもたちの声を受け止めているチャイルドラインみやぎ。電話で子どもの悩みを聞く「受け手」とそれを支える「支え手」が一体となって、活動しています。子どもの話を聞くことの重要性を、代表の小林純子さんに教えてもらいました。

## 子どもの声を、これからも聞き続ける

あなたの心の荷物を話して軽くしてほしい

チャイルドラインは、18歳までの子どもたちの話を聞く電話です。1986年、イギリスで始まった虐待防止ホットラインをモデルにしています。子どもがSOSを出す・相談する事ができる取り組みとして全国に紹介され、国内では現在68団体が活動しています。

### 子どものコロナ疲れも注意が必要です

宮城県内からの電話の件数は、年間2、3千件ほど。常時電話が鳴り、最近は一時的に増え、原則として子どもが電話を切るまで、時間制限は設けずに向き合います。新型コロナウイルス感染症拡大により、休校になったときに虐待からの逃げ場がなくなりました。親の仕事に影響があった、先生たちもピリピリしている、などの電話が増えました。全国的にもチャイルドラインのカード配布を強化し、周知を図っています。

直近の調査では、宮城の子どもたちは、長引くコロナ禍の影響を強く受けているように、全国的な傾向に比べ「疲れ」を感じている割合が多いです。震災後の状況に似ていて、親が大変なときは子どもが頑張っていますが、親が落ち着くころに、それまで押さえていた子どもの感情が「怒り・いらだち」となって現れる可能性があります。

電話では、どうしていいかわからず泣いてしまったりもいます。それでも「どうしたらいいですか」との問いに大人が答えを教えるのではなく、自らの行動を決められるよう寄り添う「エンパワメント」を心がけています。解決策がすぐに見つからなくても、悩みを吐き出して気持ちを軽くしてほしいです。

「聞く」スキルはなかなか高度なもの。普通の電話はラリーですが、ひたすら聞くには受け止めるための器量が必要で、受け手には学生から社会人までいますが、普段の会話をしやすくなった、会社の部下との関係や親子関係が良くなったという人は多いです。学生の中には、未熟な自分で大丈夫かと思う方もいます。

「心の扉は内側からしか開かない」と言われたことがありますが、せかさず待つことで、子どもを尊重して接すれば、いつか心を開いてくれたときに初めて本当の気持ちが出る。チャイルドラインはその使命を果たす活動です。電話は古いといわれるかもしれませんが、文面では拾いきれない機微を感じたり、面と向かっては言いにくいことが話せたりといった良さがあります。子どもたちには気軽に電話してもらい、大人たちは、今日から改めて子どもの尊重や支援について考えていただければ幸いです。

「子どもの荷物を受け止めて軽くする」のが私たちの役割です。人に知られたくないことも、一人で悩んでいると、ストレスがどんどん大き

### 子どもの権利条約

子どもの基本的人権を国際的に保障するために定められた条約で、日本は1994年に批准しました。

<b>生きる権利</b> すべての子どもの命が守られること	<b>育つ権利</b> もって生まれた能力を十分に伸ばして成長できるように、医療や教育、生活への支援を受け、友達と遊んだりすること
<b>守られる権利</b> 暴力や搾取、有害な労働などから守られること	<b>参加する権利</b> 自由に意見を表したり、団体を作ったりできること

チャイルドライン ☎0120-99-7777 通話料無料(携帯・スマホもOK) 時間:毎日16時~21時

「子どものたより場」は、子どもの貧困や困りごと解消に取り組む団体をサポートする助成事業です。「たより場」活動の情報発信を通じて、新しく活動に加わる人・始める人、それを支える人を増やすこと、社会全体として理解を高めていくことを目標としています。

「たより場」にあたる活動は、子ども食堂、学習サポート、フリースクール、放課後の遊び場・居場所づくり、子どもやその親の相談サポート、貧困世帯への食糧支援などさまざまです。子どもの貧困をはじめ、子どもに関わる問題は外から見えずらく、介入や解決が簡単にはできない場合もあります。だからこそ、地域コミュニティの中で支えることが大きな助けとなります。

昨今は、多くの活動団体が新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けています。コロナ禍における変化や対策も含め、これからも子どもたちを支える活動を紹介します。宮城県内の子どもの状況を知り、ぜひ子どもへの支援、子どもを支える方々への支援をいただければ幸いです。

「子どものたより場」は、子どもの貧困や困りごと解消に取り組む団体をサポートする助成事業です。「たより場」活動の情報発信を通じて、新しく活動に加わる人・始める人、それを支える人を増やすこと、社会全体として理解を高めていくことを目標としています。

「たより場」にあたる活動は、子ども食堂、学習サポート、フリースクール、放課後の遊び場・居場所づくり、子どもやその親の相談サポート、貧困世帯への食糧支援などさまざまです。子どもの貧困をはじめ、子どもに関わる問題は外から見えずらく、介入や解決が簡単にはできない場合もあります。だからこそ、地域コミュニティの中で支えることが大きな助けとなります。

昨今は、多くの活動団体が新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けています。コロナ禍における変化や対策も含め、これからも子どもたちを支える活動を紹介します。宮城県内の子どもの状況を知り、ぜひ子どもへの支援、子どもを支える方々への支援をいただければ幸いです。

「聞く」スキルはなかなか高度なもの。普通の電話はラリーですが、ひたすら聞くには受け止めるための器量が必要で、受け手には学生から社会人までいますが、普段の会話をしやすくなった、会社の部下との関係や親子関係が良くなったという人は多いです。学生の中には、未熟な自分で大丈夫かと思う方もいます。

「心の扉は内側からしか開かない」と言われたことがありますが、せかさず待つことで、子どもを尊重して接すれば、いつか心を開いてくれたときに初めて本当の気持ちが出る。チャイルドラインはその使命を果たす活動です。電話は古いといわれるかもしれませんが、文面では拾いきれない機微を感じたり、面と向かっては言いにくいことが話せたりといった良さがあります。子どもたちには気軽に電話してもらい、大人たちは、今日から改めて子どもの尊重や支援について考えていただければ幸いです。

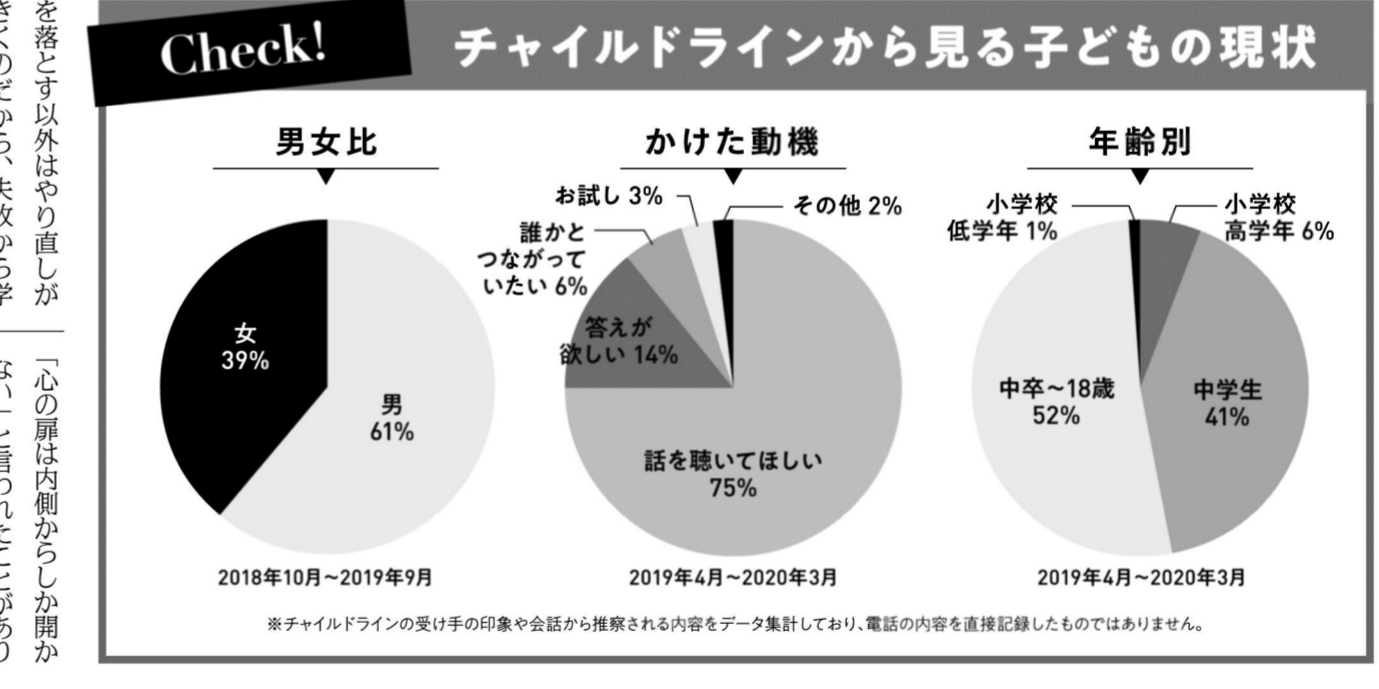
「子どものたより場」は、子どもの貧困や困りごと解消に取り組む団体をサポートする助成事業です。「たより場」活動の情報発信を通じて、新しく活動に加わる人・始める人、それを支える人を増やすこと、社会全体として理解を高めていくことを目標としています。

「たより場」にあたる活動は、子ども食堂、学習サポート、フリースクール、放課後の遊び場・居場所づくり、子どもやその親の相談サポート、貧困世帯への食糧支援などさまざまです。子どもの貧困をはじめ、子どもに関わる問題は外から見えずらく、介入や解決が簡単にはできない場合もあります。だからこそ、地域コミュニティの中で支えることが大きな助けとなります。

「子どものたより場」は、子どもの貧困や困りごと解消に取り組む団体をサポートする助成事業です。「たより場」活動の情報発信を通じて、新しく活動に加わる人・始める人、それを支える人を増やすこと、社会全体として理解を高めていくことを目標としています。

「たより場」にあたる活動は、子ども食堂、学習サポート、フリースクール、放課後の遊び場・居場所づくり、子どもやその親の相談サポート、貧困世帯への食糧支援などさまざまです。子どもの貧困をはじめ、子どもに関わる問題は外から見えずらく、介入や解決が簡単にはできない場合もあります。だからこそ、地域コミュニティの中で支えることが大きな助けとなります。

昨今は、多くの活動団体が新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けています。コロナ禍における変化や対策も含め、これからも子どもたちを支える活動を紹介します。宮城県内の子どもの状況を知り、ぜひ子どもへの支援、子どもを支える方々への支援をいただければ幸いです。



### 宮城県からのお知らせ ~子どもたちの笑顔のために~ 企業版ふるさと納税による寄附金を募集しています。

企業版ふるさと納税(地方創生応援税制)は、寄附を通じて地方公共団体(本社所在地を除く)の行う地方創生の取り組みを応援した企業が、税制上の優遇措置を受けることができる仕組みです。優遇措置については、通常寄附による法人税軽減の効果(約3割)に加え、寄附金の6割が追加で税額控除されるため、実質負担額が約1割で効果的な社会貢献が可能となっています。寄附は10万円からお受けできます。

宮城県では、どのような環境にある子どもたちも、希望に満ちた輝く未来を心に描き、笑顔で暮らすことができる社会を実現するため、「みやぎ・子どもの笑顔プロジェクト」を、寄附募集事業として、「企業版ふるさと納税」の寄附企業を募集しています。寄附金は、市町村が地域の実情に応じて行う子どもの貧困対策事業(活動団体助成事業等)に対する支援や「子ども食堂」をはじめとした子どもの居場所づくり活動に対する支援などに活用するとともに、寄附企業を、県のホームページで紹介しています。

**地方創生応援税制活用後**

通常の寄附	企業版ふるさと納税を活用した寄附
損金算入による軽減効果 約3割	税額控除 6割
企業負担 約1割	軽減効果最大 約9割に

制度の詳細や活用に関するお問い合わせについて

県総合政策課:022-211-2419 県子育て社会推進課:022-211-2528  
https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/seisaku/tihouseusei-ouenzeisei.html

SDGsと子どものたより場プロジェクト 当プロジェクトではSDGsの7つのゴールを中心に取り組んでいます。

協賛: 河北新報社, 協賛: KIRIN, 大和証券, DICグラフィックス株式会社

主催: 宮城県 Miyagi Prefectural Government

協賛: 東北学院大学 TOHOKU GYOKUIN UNIVERSITY, 東北福祉大学 TOHOKU FUKUSHI UNIVERSITY, みやぎ生活協同組合, 株式会社 ワコファースト商事

協賛: 公益財団法人 地域創造基金さなぶり, 基金への寄付: 太子食品, 立命館大学

### 子どものたより場 代表理事 小林純子さん

親を対象とした子育て支援活動を経て、チャイルドラインみやぎ設立に尽力。仙台では転勤族の家庭が孤立しやすいといった地域の課題から、虐待や子どものSOS発信の受け皿をつくる重要性を早くから指摘した。ボランティアである電話の受け手の育成や、チャイルドラインの活動を通じて分析した子どもの傾向を広く発信している。

「心の扉が開くまで 私たちは待っています」  
子ども支援に携わる中で、

### 子どものたより場 助成事業

子どものたより場助成プロジェクトは支援団体の皆さまを応援しています

#### 子どものたより場 助成基金

振込先: 七十七銀行・本店営業部 普通 5026553  
口座名: 子どものたより場助成プロジェクト 公益財団法人 地域創造基金さなぶり

ゆうちょ銀行・二二九店 当座預金: 0121920  
郵便振替口座: 02290-0-121920 共通口座名: 子どものたより場助成プロジェクト

子どものたより場の支援にご協力をお願いします  
※いただいたご寄付は、子どもの貧困に関わる活動をはじめとした、たより場の支援に活用させていただきます(事務費15%を頂戴します)

領収書の発行・基金に関するお問い合わせ/公益財団法人 地域創造基金さなぶり  
住所: 宮城県仙台市青葉区大町1-2-23桜大町ビル602 担当: 鈴木(月-金:9時30分~17時)  
TEL:022-748-7283 E-mail:kifu@sanaburifund.org

SDGsと子どものたより場プロジェクト 当プロジェクトではSDGsの7つのゴールを中心に取り組んでいます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

子どものたより場 検索: http://kodomonotayoriba.kahoku.co.jp/

問い合わせ/河北新報社営業局営業部 TEL:022-211-1318(平日10時~17時)